

三条教区通信

第 38 号

発行日 2010年8月1日
 発行者 三条教務所長 藤坂 初裕
 発行所 真宗大谷派三条教務所
 〒955-0071 三条市本町 2-1-57
 E-mail: sanjo@higashihonganji.or.jp
 URL: <http://www.gobosama.net>

★本通信は上記 URL からご覧いただけます。

今月の法語

[法語カレンダーより]

本願をききて
 疑うころなきを
 聞というなり

【一念多念文意】

研修会等ご案内

■夏期子ども会巡回 開催案内同封

- ◆ 日時 2010年8月17日(火)～20日(金)
- ◆ 会場 各希望場所(教区内)
- ◆ 内容 大型・中型紙芝居、ゲーム、お話等
- ◆ 巡回員 児童教化研修会部門スタッフ4名程
- ◆ 公演料 5,000円程
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:五辻)まで。
[主催:「児童教化研修会」部門]

■全戦争犠牲者追弔法会 開催案内既送

- ◆ 日時 2010年8月29日(日)
- ◆ 会場 三条別院
- ◆ 内容 法要、映画『GATE』上映
- ◆ その他 法要への出仕をお願いいたします。
開催内容、出仕の詳細は、同封の案内とチラシを参照ください。
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:源)まで。
[主催:「靖国問題研修会」部門]

■教区女性研修会 開催案内後日

- ◆ 日時 2010年10月5日(火)
- ◆ 会場 教区同朋会館
- ◆ 講師 古田 和弘 氏 (大谷大学名誉教授)

- ◆ テーマ 「御遠忌を迎えるころ
～宗祖としての親鸞聖人に遇う」
- ◆ 対象 教区内有縁の方
- ◆ 公演料 1,500円
- ◆ 問合せ 三条教務所(担当:史陀)まで。
[主催:「女性研修会」部門]

■教区推進員研修会 開催案内後日

- ◆ 日程 10月7日(木)午前10時～午後4時
- ◆ 会場 三条別院・教区同朋会館
(三条市本町 2-1-57 FAX0256-33-2805)
- ◆ 講師 青木 新門 氏 (作家)※映画『おくりびと』の原点となった『納棺夫日記』著者
- ◆ 講題 未定

宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌

本山御遠忌法要について

これからのタイムスケジュールは実施計画書『御遠忌参拝案内』により、下記の流れとなっております。

- ① 2010年9月10日頃引率責任者に本山から「確認書」を送付。
- ② 2010年10月に参拝席抽選があり、11月30日頃指定席券と座席表が本山から教務所へ送付。
- ③ 教区で調整。
- ④ 2011年1月頃には、確定一覧が教務所に、「確定書」「手引き」「しおり」「運行計画表」が引率責任者に、本山から送付予定。

2011年	
第一期法要	3月19日～3月28日
第二期法要	4月19日～4月28日
第三期法要	5月19日～5月28日
御正当報恩講	11月21日～11月28日

教区御遠忌お待ち受け法要の予定

各種案内同封

- ①期間 2010年11月5日(金)～8日(月)
 ②場所 三条別院
 ③形態 教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講
 ④帰敬式 11月6日(土)日中後鍵役により執行
 11月7日(日)日中後鍵役により執行
 11月8日(月)午後門首により執行
 ⑤日程概要(予定)

日	午前	午後
5	田んぼアート採納式 坊守会採納式 11:00 音楽法要	12:00 おとき 13:00 講話 田口ランディ氏 14:00 初速夜 15:00 御伝鈔 (上巻) 16:00 終了
6	07:00 初晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 初日中 日中後、帰敬式	12:00 おとき 13:00 法話 武田定光氏 14:00 中速夜 (御参修) 15:20 御伝鈔 (下巻) 16:00 終了
7	07:00 中晨朝 07:45 法話 (約30分) 10:00 中日中 日中後、帰敬式	12:00 おとき 13:00 法話 真城義麿氏 14:00 結願速夜 御俗姓 15:20 文弥人形 16:00 終了 18:30 記念懇親会
8	07:00 結願晨朝 07:55 法話 (約30分) 10:00 結願日中 (御親修)	12:00 おとき 13:00 帰敬式準備 整列開始 13:30 帰敬式 (門首執行) 14:30 記念講演 小川一乗氏 16:00 終了

- ◎出仕について: 役職者はもちろん、全寺院の御出仕をお願いいたします。締め切り10月15日。
 ◎帰敬式受式について: 手次寺院の御住職を通して、各組に申込書を御提出いただき、原則として各組の団体参拝に御参加くださるよう御配慮をお願いいたします。各組長締め切り9月25日。
 ◎参拝について: 近隣の15組を除き団体参拝を原則とし、おとき・帰敬式と共に、各組ごとに募集いたします。各組長締め切り10月15日。
 ◎記念懇親会について: 門首をお迎えし、11月7日午後6時40分から燕ワシントンホテルにて記念懇親会を開催いたします。記念懇親会はお盆過ぎにご案内いたします。

組 御遠忌お待ち受け法要(大会)について

【開催予定期日】

2010年
第12組お待ち受け法要
期 日: 2010年10月24日(日)
記念法話: 安原晃氏

御遠忌讃仰事業の予定

本山の御遠忌讃仰期間中の2011年3月31日に、教区の日として本山で田んぼアート採納式や展示企画を開催いたします。

2009年度 住職研修会報告(佐渡組)

(2010年6月7日於専念寺)



佐渡組 浄願寺 藤岡 正典

今回も、昨年度に引き続いて水島見一先生(大谷大学教授)にお出でいただき、テーマ「何故、同朋会運動が必要とされたのか?」についての継続講義をいただきました。

昨年度は、同朋会運動の源流、清沢満之の生きざまによって明らかにされた自覚教としての真宗、そして、暁鳥敏、佐々木月樵、高光大船、曾我量深、松原祐善、訓覇信雄各師にそれが受け継がれ深められていった、その歴史を中心に学んだ。つまり、浩々洞の「精神主義」を出発点として、大谷大学、興法学園、相応学舎、真人舎の同朋会運動への展開を学ぶことになったのです。

水島先生は、「自己とは何ぞや、これ人生の根本問題なり」「自己とは他なし、絶対無限の妙用に乗托して……」の満之の言葉を引用されて、同朋会運動は満之が出世を捨てたところに出発点がある、と強調され、そして、具体的に、癌患者の「人間的希望の絶望」にめぐらされ、「世々生々の苦しみ如来より約束されている」の自覚に至って初めて本願に出遇える、そして、それは親鸞聖人が六角堂参籠体験の自覚「雑行を捨てて本願に帰す」の精神に一体化する世界で

あり、回心、一人の目覚めの社会の確立が同朋会運動の精神であることを指摘され、「真実信心」の社会の営みの確立の重要性を明らかにして下さいました。

今回の佐渡組における住職研修会では、宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」三条教区御遠忌スローガン「おめさん そろっと参ろうて！」—私を新発見—のもと、講題「何故、同朋会運動が必要とされたのか」のまとめの講義を上記の昨年の内容を受ける形で水島先生にご講義いただきました。

今回は、幾つかのエピソードをご紹介いただきそれを一人一人が受け止めることでテーマを深める機縁をいただくことになったのです。

先ず最初は、和田稠先生の願いによって、同朋会運動を大谷大学でも行ってきた事実、有識者による講義、特に西とどう違うかの観点からお西の講師を招聘。それは信心に立つスタンスがとられたことを表している。詰まり満之の「自覚の仏道」がはっきりしてきたことを表し、「親鸞の仏道」に立つ姿勢であったことを表しているのである。大谷派にはこういう伝統が厳然と存在している、と先生は語って下さいました。

次は安芸門徒の言葉が印象深い。「大谷派はいいですね、」という。「伝統があるから」と。年下の暁鳥敏が曾我量深を「曾我君」と呼び、量深が敏を「暁鳥先生」と呼ばれたエピソード。信心を賜った者同士の平等で自在な姿。満之の仏道を信念をもって掘り起こしてゆかれ、曾我量深の信念がばらまかれ、そのことによって、満氏の息吹が全国に広まっていった、と水島先生は熱弁を振るわれました。

同朋会運動は、「米粒一つ一つ」「教団護持のための運動でない」「全人類の救済の教えが、真宗である」「信心獲得の一人の誕生を」と叫ばれた訓覇信雄師の姿勢を語られた後、水島先生はご自分が得度をしたとき、伯父が「よく生まれてきたと、法名釈良生」を喜ばれ、また、祖母から、「本当のことがわからんと意味がない」と「生まれた意義と生きる喜び」を感得する「回心せんといかん」と大切な言葉を贈られたエピソードを語って下さいました。

また、質問を受けた量深師が「南無阿弥陀仏」は「南無阿弥陀仏である。」と知識より信心に目覚めることが重要であると「信心を獲る」一点の強調のエピソードは誠に印象深いものでした。

更に、高光大船によって大谷大学の学生の価値観が一転したエピソード。「勉強は分別沙汰だ」の言から、仏法は分別でないということが認識され、「いかに目覚めるか」に運動の原点があると了解されていったエピソードは、大船師の人柄を偲ばせ状況を彷彿させてくれました。

そして、先生の講義は最高潮に達します。清沢満之の最後の言葉、「ヒュードロ」と言って苦笑する満之の

姿、これが信心の世界でないか。弥陀の本願に立つということでないか、と水島先生は教示下さり、「いかに信心を獲るか」が今日においても同じ課題でないかと示唆して下さいました。

最後に、宗祖親鸞聖人は弥陀の本願に立脚する故師法然上人を信頼しきっていた。同朋会運動は信仰運動である。その意味で清沢満之の影響の大であることがこの運動の大きな特徴である、と先生は指摘され、「信心を明らかにする運動」を改めるよりも、より明確にしていくことが大切な課題であると、呼びかけられ、「今一度、原点に帰ろう」と水島先生は呼びかけて講義を結ばれました。

一年後に御遠忌を控え、「真宗門徒として宗祖聖人に出会う」自分を見つめ問う機縁が真に機縁となる意味において、誠に時宜を得た研修でなかったかと思う次第です。

そして、今回は、安藤栄寿先生(21組勝楽寺住職)を派遣いただき、内陣出退作法のご指導をしていただきました。指貫の履き方、紐の結び方をはじめとして正しい作法について教えて戴く機会を得た事は誠に有難いことでした。帰敬の精神、それに伴うお内陣莊嚴、そして自信教人信の聞法、それらが一体となったところに御同朋御同行の同朋会運動の真の世界がある、との安藤先生の指摘は、忘れがちな日常性に活を入れていただけるものでした。6月27日のお待ち受け法要が無事終える力となり、お待ち受け記念大会が成功裏に終えられたのは、当日の直接的関係者もさることながら、今回の両先生のご指導のご縁によるところが大きかったことを申し添え、佐渡組における住職研修会の実施報告と致します。

第4回住職研修会報告

猪飼松子〈10組超願寺門徒〉

【日時・会場】

6月7日【月】 佐渡組 専念寺

6月8日(火) 21組 木楊場教会

6月9日【水】 11組 願興寺

【講義】

講師 水島見一氏(大谷大学教授)

講題 「何故 同朋会運動が必要とされたのか」

【習礼】

講師 安藤栄寿氏(21組勝楽寺住職)

【参加人数】

3会場 合計57名

【講義のあらまし】

講師の水島先生は今回で3回目の御出講でした。明治・大正・昭和初期・中期・後期に渡って貫いてきた先達諸師の、同期会運動にかける熱い思いについて、3年間語り続けて来られました。

大谷派の伝統は何か。それは、真宗を真宗たらし

めてきた、清沢満之・曾我量深・暁烏敏・高光大船・金子大栄・安田理深・松原祐善・宮谷法含・訓覇信雄等が次々と、ちょうど箭の節目のように生まれ、信心の要(かなめ)をしっかりと受け継いできた事である。

その信心の要(かなめ)とは何か。それは、阿弥陀の本願に救われる自己は、地獄一じょう住みかの身、束縛の業を持ちいづれの行も及び難き身、愚禿の身の親鸞一人である。これが同朋会運動の原点であると、繰り返し教えられました。そして、先達諸師の残された数々の遺訓を紹介されましたが、特に訓覇信雄師の言葉が強く心に残りました。

訓覇師は、特伝講師に向かって、「一人をみつけ一人を育てるんだ。一人も見つけられん講師じゃ駄目だ。特伝は一本釣りだ。こぼれたご飯を拾う時は、かき集めるより、一粒一粒拾ったほうが早い。特伝の目標は、多くの人が集まって威勢の良いことではない。一人の信ある人が生まれる事である」と。

最後に水島先生は、真実信心を得た人は①不断慎悩得涅槃②だまっておれん③御同朋御同行のころ。この3点に生きる人であろうと結ばれました。

【出仕退出修礼】



実技に入る前に、出仕退出の心得について講義がありました。莊嚴とは、肉眼で見られないものを見えるように型取ることで、阿弥陀様の教化を型取るのである。また勤行は、仏恩報謝の表業であり、声明は七高僧並びに親鸞聖人の御化導を聴聞し、常に崇敬の心をもってお莊嚴していくものであると、教えられました。

実技では、正式な装束を着け、お内陣にはいり、重い挿鞋(そうかい)を履き、和讃本の扱いかたを初め、出退の作法について、一人一人丁寧に指導を受けられました。

11月の教区お待ち受け法要には、多数のお内陣出仕が期待されます。

教化委員会からのお知らせ

三条教区教化研修テーマについて

教化委員会企画委員会において、これまでの教区教化研修テーマ「共にといえる 人生を生きよう」について、教化委員会任期満了までの間、継続する運びとなりました。

教区教化委員会を中心に、このテーマについて考察を重ねて、次の教化委員会へ引き継ぐべく、【「共にといえる、人生を生きよう」に憶う】と題して、順番に執筆、毎月『教区通信』に掲載いたします。

第22回目は、社会広報部会委員の中山哲氏(第19組西光寺)です。

「共にといえる、人生を生きよう」に憶う

第19組 西光寺 中山 哲

先日、名古屋別院にお参りをさせていただきました。三条別院と同じく一如上人を開基としていることを知ってから、一度お参りをしたいと思っていた別院でした。そこでいただいてきた「ごぼう子ども新聞」に、ボランティアの人が外国人に日本語を教えている、東別院日本語教室の記事が載っていました。

さすがに都会は違うと思いましたが、考えてみれば、新潟の街に行けば外国の人がやっている店も多いし、自分の周りにも国際結婚をしている人は結構いるものです。ただ直接関係がないから、知らないふりをしていただけのことです。

「共に」といった場合、ここまで範囲を広げなくともまず家族であり、寺の御門徒方になるのでしょうか。その中でも自分は本当に「共に」といえる生活をしてきているのでしょうか。

ある先生が言うておられましたが、自分は住職として寺を守っているつもりになっていたが、講師として話をしに出かけることも家族が寺を守っているからできるのであり、また御門徒方がこちらの都合を優先してくれているからだ。

実際に私が名古屋別院にお参りに行けたのも、教化委員会・御遠忌委員会の委員として会議に出たり調査に行ったりできるのも、全て周りの協力があったことです。けれど、いつの間にか自分が全てをやっているつもりになっていて、自分の都合が通らないとそれを他人のせいにして、あの人は良い、あの人は悪いと決め付けてしまっています。何年か前に「おひとりさま」という言葉で老後の心得を書いた本が話題になりました。その中では、ひとりで気楽に生きて行くにしても友達のネットワークは大切だとされているのですが、やはり何かしら人との繋がりを持っていたいということなのでしょう。また、携帯電話を手放せずに常にメー

ルをチェックして、直ぐに返事を出さないと不安になる人がいると聞きますが、これも自分は一人ではないんだという安心感が欲しいのでしょうか、何か自分の都合だけを押しつけているように思えます。親鸞聖人は御臨末の御書の中で「一人居て喜ばは二人と思ふべし、二人居て喜ばは三人と思ふべし、その一人は親鸞なり。」とおっしゃっていますが、これを機会にもう一度「共に」という意味を考え直してみたいと思っています。

※次回は社会広報部会委員の多田修氏(第20組 照覺寺)よりご執筆いただきます。

長岡地区推進員研修会報告

第二十四組 専明寺推進員 関谷靖司

日 時 2010年5月27日
場 所 二四組 萬行寺(魚沼市)
講 師 往生人舎 主宰 今泉 温資氏
講 題 「宗祖親鸞聖人の御遠忌を迎えるにあたって」
参拝者 八三人



研修会当日は小雨模様の寒い一日でしたが、藤坂教務所長をはじめ会員多数の方から地理不便の地にご参加賜り厚く御礼申し上げます。

二四組で初めての研修会は当番でしたが、来年の御遠忌を控え会場は熱気にあふれていました。

法話の概要

宗祖親鸞聖人七十五回忌を迎えるにあたり聖人の生涯にふれ、本願念仏の教えを生涯の使命として人々に伝えたこと、そして、現代に生きる私達も、先達から受け継がれた聖人の教えを後世に伝える責務があるという認識をもつことが要請されている。聖人の教えにうなづき聞法生活にさらに精進願いたい。

話すことは水、聞くことは石にとえられますが、聖人は二五〇〇年前釈尊から引き継いだ七高僧の教えを研究され、更に聖人の教えは蓮如上人によって七五十年をすぎた今も脈々生きておりま

す。

私達はこの御遠忌に会えた幸せを契機として、聖人の教えにうなづき、先達のご苦勞を知ると共に、聖人の教えを後世に伝える責務があることを痛感いたしました。

昼食・休憩・班別座談会・各班発表と進んだ後まよめの講義になりました。

非人間化の進む社会にあつて、真宗門徒の使命は大きいものがあります。

本願念仏を目的として同朋と共に、更に精進することが大切であります。

その尊い姿は必ず承継されるものと確信いたします。

新潟地区推進員研修会報告

佐渡組 浄願寺推進員 宇治一夫

日 時 2010年6月5～6日
場 所 佐渡市 ホテル万長
講 師 広永寺 住職 大久保 州氏
講 題 「よきひとのおおせ」
参拝者 五三名



新潟地区推進員連絡協議会では、五月晴れの六月五日六日の二日間、佐渡相川の「ホテル万長」を会場に研修会を開催した。

三条教務所からは教区強化委員長藤坂初裕氏の代理として北島栄誠駐在教導が出席。講師には相川広永寺住職の大久保州氏を迎えて、「よきひとのおおせ」と題して講義があつたが、とくに、「不安とともに生きていきたい」と言われた老婆を例にされた法話は出席者の胸をうち座談会でも話題になったほどです。

その座談会は三班に分かれて行われたが、二班では、いまの世の中、老人の一人暮らしなる不安があるし、家庭内別居も他人ごとではない、家族がいても施設に入れられる不安もある。そんな境遇に追い込まれたとき、私はその不安とともに生きていけるだろうか、との問いに対して、そ

んな物理的なことのみにとらわれてはならないのではあるまいか、という人が出たり、研修会に初めて出席したが、自分を見つめるいい機会になった、と話す人もいて、三班などは時間を超過したほどだった。

また、このように熱心に聴聞し発言もあった一方で、夕食懇談会では地元佐渡の出席者から民謡や歌が披露され楽しいひとときを過ごした後、相川の観光イベント「宵の舞」を見学に出かけ、これ又、金山の古い町並みの夜に演出された民謡流しに酔っていた。

さらに二日目の最後は、隠れた金山コースをふれあいガイドの案内でまわり、日帰りコースでは味わうことができない二日間に出席者は満足されていた。

閉会式では、会場地佐渡組の会長から「同朋運動は間もなく五十年を迎えるが、私ども同行衆は進んで聴聞しようとする人がまだ少ない。催し参加することは同行衆が出会いをつくることでもあり、自分を見つめる機会でもある。そして、研修会は聴聞の架け橋であるので、次の機会も努めて参加しようではないか」という意味の挨拶があって、出席者は、次回も参加しようと呼びかけあいながら会場をあとにした。

教務所からのお知らせ

◎出版担当者からのお知らせ

このたび、難波別院より、まんが本を再入荷いたしました。ご希望の方は教務所までお問い合わせください。よろしく願いいたします。

『まんが蓮如さん』	1000円
『まんが教如さん』	1300円
『まんが宗祖親鸞聖人1巻』	900円
『まんが宗祖親鸞聖人2巻』	1200円

また、東本願寺出版部より新刊書が発行されました。こちらも併せてよろしく願いいたします。

『君はそのままがいいんじゃないか』	350円
『増補 親鸞』松野 純孝 著	5000円

◎7月の水害に対する本山の対応報告

(第1報)

1 鹿児島県南大隈町根占にて2010年7月5日午後5時頃発生した土石流被害

(1) 被害状況

門徒2軒 床下浸水。被害地区50軒の方が避難所又は親戚宅等に自主避難。

(2) 対応

7月8日(金)午後1時 災害救援本部会議開催
(本山より職員派遣決定) 7月9日(土) 鹿児

島教務所長、同主計、熊本教務所主計、宗務所職員2名が被害地区にある当派寺院、避難所、南大隈町役場に見舞いに出向き救援物資(タオル870本、ミネラルウォーター60本)を届ける。

(閉庁のため避難所にて役場職員に委託)

2 西日本を中心とした豪雨被害状況について

(1) 被害状況

久留米教区 1カ寺 崖崩れにより車庫に土石流入。1カ寺 境内排水溝氾濫により、納骨堂に浸水被害有。その他、2010年7月16日午後7時現在 大谷派寺院、門徒の被害報告なし。山口県山陽小野田市(大谷派寺院なし)、約2,300棟が浸水被害。

(2) 対応

7月14日(水) 組織部より近畿連区、九州連区の各教務所に被害状況の確認依頼。7月16日(木) 岐阜、山陽、京都教務所に被害状況の確認依頼。各教務所からは特に大谷派寺院、門徒に被害なしとの報告有。午前9時 災害救援本部会議、山口県山陽小野田市の災害規模に鑑み開催。午後3時 災害救援本部会議開催。(本山より職員派遣決定) 午後4時30分、お見舞い並びに現地調査を目的に宗務所職員1名、ボランティア委員1名、NPO法人レスキューストックヤードから1名が救援物資(タオル、ブルーシート、折りたたみリヤカー、テント)をワゴン車に積込、現地へ出発。

(第2報)

1 山口県山陽小野田市を中心とした水害について

(1) 被害状況 山口県山陽小野田市(大谷派寺院なし)、約2,300棟が浸水被害。

(2) 対応 7月16日(金) 災害救援本部会議の決定を受け、お見舞い並びに現地調査を目的に宗務所職員1名、ボランティア委員1名、NPO法人レスキューストックヤードから1名が救援物資(タオル、ブルーシート、折りたたみリヤカー、テント)をワゴン車に積込、現地へ出発。17日(土) 本願寺派山口教務所に災害見舞い後、ボランティア受入窓口となる山陽福祉会館に救援物資(タオル1,000枚)を届け、ボランティアセンター開設に係る被災者への周知等の業務に従事する。18日(日) 17日に引き続き、ボランティア活動に従事。

2 広島県庄原市における土砂災害について

(1) 被害状況 市内の大谷派寺院2カ寺に直接の被害はなし。しかし、所属門徒14世帯が避難所に避難。

(2) 対応 19日(月) 山陽小野田市への派遣職員がそのまま現地に赴き、避難所に救援物資(タオル1,000枚・バスタオル30枚・ウェットティッシュ24個・ペットボトル飲料48本)を届ける。

上記の災害について、21日(水) 災害救援本部会議が開催され、対応が協議されました。その結果、現

時点では両災害に係る見舞金の給付や救援金の勸募は行わないことが確認され、今後教務所を通じてさらに被害の詳細把握に努めることとなりました。また、宗派としてのボランティアの呼びかけについては、山陽小野田市・庄原市とも、県外ボランティアの受入をおこなっていないこと、特に庄原市においては被災地への立ち入り制限が解除されていないこと等から、現時点では行わないことが確認されました。取り急ぎ、お知らせいたします。

◎同朋の会結成届けについて

寺院・教会や地域などで同朋の会が結成されましたら、結成届を教務所にご提出ください。届出の提出されました同朋の会には、「同朋の会提灯」や「同朋の会奉仕上山旗」が無償で贈呈されます。

(贈与は1回。提灯や上山旗には申請されました会の名称が入ります)また、「同朋会員結婚記念念珠」が無償で贈られます。詳しくは教務所(森・北島まで)

ラジオ放送「東本願寺の時間」

○テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」

○講師

★7/18～8/28 三島 清圓 氏(高山教区)

★8/29～10/9 埴山 法雄 氏(高岡教区)

○放送局 新潟放送(BSN)

*新潟県全県をカバー

・小出エリア 1026KHz

・中越エリア 1062KHz

・下越エリア 1116KHz

・塩沢エリア 1485KHz

・上越エリア 1530KHz

○時間 毎週金曜日 5:00～5:10

○提供 吉運堂 様

◎ラジオ放送「東本願寺の時間」について

宗門が1951年11月よりラジオ伝道として取り組んできている「東本願寺の時間」について、吉運堂様のご提供により、新潟県でもお聞きになれます。

また、現在は、宗祖の御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を番組テーマとして様々な方より法話をいたしておりますが、現在、宗派のホームページである「しんらんしょうにんホームページ」

(<http://higashihonganji.jp/index.html>)にて、これまで放送された番組をお聴きいただくことができます。

是非、ご聴取ください。

◎教務所事務休止について

下記のとおり教務所事務を休止とさせていただきます。期間中まことに御迷惑をおかけいたしますが、何卒よろしくお祈りいたします。

①期間 2010年8月12日～8月18日

②緊急連絡先

・三条別院 0256-33-0007

・藤坂所長 0766-76-2911(光臨寺)

・加田岡主計 0749-85-4527(圓長寺)

・竹内主事 02559-2-2326(光円寺)

◎教区他 主な行事予定一覧(7月23日現在)

日程は変更となる場合があります。諸行事の重複等を避けるうで参考になるよう、なるべく把握している行事は掲載しております。

日程は諸事情により変更される場合があります。

日	時	行事内容
2010年		
8月		
8/2	15:00	谷大同窓会支部役員会
8/3		三条別院責任役員会 三条別院院議会 20組夏の集い
8/5	13:30	正副組長会
8/9	14:00	靖国会議
8/12～8/18		教務所事務休暇
8/20		～23日三条別院人生講座
8/21	14:00	真宗学院
8/22	14:00	真宗学院特別講義
8/23	14:00	靖国会議
8/24	14:00	同朋の会教導代表者会
8/25		16組教化委員会
8/28	14:00	真宗学院 10組推養(補)
8/29		全戦争犠牲者追弔法会
9月以降の予定		
9/2		10組教化委員会
9/4	14:00	真宗学院
9/6	19:00	15組推進員養成講座反省会
9/7		谷大同窓会支部総会
9/11	14:00	真宗学院 長岡公開講座
9/18	14:00	真宗学院
9/24		～26日 別院彼岸会・朝の人生講座
9/29	13:00	16組坊守学習会
10/1		～3日 10組推養後期教習上山 15組女性研修
10/2	13:00	仏教文化講演会
	14:00	真宗学院

	茶会事前準備会場使用
10/3	宗徧流茶会
10/5	教区女性研修会 15組推進員養成講座
10/7	教区推連協研修会
10/9 14:00	真宗学院
10/13	15組有縁会
10/15 14:00	若手寺族研修スタッフ会議
10/16 14:00	真宗学院
10/21 15:00 17:00	出退作法講習会 掛役習礼
10/23 14:00	真宗学院
10/24	12組お待ち受け法要
10/30 14:00	真宗学院
11/5	～8日教区お待ち受け法要兼三条別院報恩講
11/6 14:00	真宗学院報恩講参拝
11/9	～11日部落解放全国研究集会(於:朱鷺メッセ)
11/13 14:00	真宗学院
11/20 14:00	真宗学院 15組有縁会
11/21	～28日本山報恩講
11/27 14:00	真宗学院
11/30	正副組長・同朋の会教導任期満了
12/3	～5日15組推進員養成講座後期上山
12/4 14:00	真宗学院
12/9 13:00	16組坊守学習会
12/11 14:00	真宗学院
12/18 14:00	真宗学院
12/23	選出教区会議員・教区監事(参事会選出)任期満了
2011年	
2/26	～27日真宗学院一泊研修
3/5	～6日15組推進員養成講座(別院)
3/19	～3/28本山御遠忌第一期法要
3/29	～4/18本山御遠忌御遠忌讃仰
3/31	御遠忌讃仰三条教区の日(本山) 御依頼適正審議会委員・組奨励員・ 「差別と真宗」協議会員任期満了
4/1	～3日本山春の法要
4/19	～4/28本山御遠忌第二期法要
4/29	～5/18本山御遠忌御遠忌讃仰
5/19	～5/28本山御遠忌第三期法要
6/30	教区教化委員・教区坊守役員・教区御遠忌委員(所長選定)任期満了
9/30	査察委員任期満了
11/5	～8日三条別院報恩講
11/21	～28日本山御正當報恩講
2012年 同朋会運動50周年	
3/31	教区門徒会員・教区監事(常任委員会選出)任期満了
4/30	参議会議員任期満了

駐在教導のつづき

～森の篇～

◇この時期になると思い出すことがあります。それは6年前、2004年の7月下旬のこと、鹿児島教務所を早朝出発して、西都で高速を下り国道10号線に出るため近道をしたつもりが、航空自衛隊の新田原基地の前に出てしまいその周囲を 何て広いんだこの基地は と、思いながらぐるりと回り、研修会に間に合うか心配し遅れたらどうしようと言いつつ考えながら川南町の会場のお寺に向かったこと。

◆そして研修会が終わり、ホッとしていると、「駐在さん、時間あるかな？、せっかく来てくれたんだから案内したいところがある。」と、教務所で何度か顔を合わせたことのある門徒さんから声が掛かった。

私としては、あとは帰るだけで時間は十分あるので返事をすると、早速に車に乗って約30分ほど、なだらかな山の頂上付近に到着、「この辺りはわしらが放牧地や牧草地に切り開いてきた所なんだ。」と、「こっちに来なさい、ここからは町の全体が見える。」

所々に落ちていた牛の糞を踏まないように足下に気を配りながら行くと、足下のなだらかなで広い牧草地の斜面が続きさらに山の麓へ、そこから先数キロに広がる基盤の目上に整地された農地。そして日向灘。

○住宅地が農地の間に点在している町の様子がよく見える。ちょうど北海道の農地を見ているような感じがしていると、ぼつりぼつりと町の歴史とご自分の生き様を併せて語り始めた、「この町は開拓の町で開拓者の出身地が全都道府県に及び、私も富山県出身で、戦時中ここには陸軍の落下傘部隊の基地があって自分は軍人としてこの地に来た、戦後その広大な基地がさらに開墾されることになってここに入植した。その後の開墾の苦勞、その中やっとな畜産で生計を立てられることとなり、組合の役員となったりその過程でこの山も開墾したこと、さらに、先ほどの研修会の会場になった自分が世話になっている寺も、昭和20年の戦後、外地から戻った名古屋出身の開教師が、なんにもないなか、この地に入植して井戸を掘り、小さな小屋を造り、開拓者への開教として日曜学校を開き、昭和20年代の終わり頃、上流のダム工事で水没することになった薬師堂を貰い受け、やっとお寺の本堂が出来た。それに関わってきたことなど。自分の開拓者としての歴史(80数年の人生を含め)がお寺の歴史とも重なることなど熱い思いを聞かせてもらい、私にとって開教について考える貴重な機会をいただいたことであつた。

●日本三大開拓地の一つとされ、全国から開拓者が入植し、農業に従事し宮崎県でもトップクラスの農業地帯となった川南町。特に畜産の占める割合が高い中での今回の口蹄疫の被害で町内のほとんどの肉

牛・豚を失うこととなってしまった。食料(食べられる)となっていく命を育てていることではあるが、その間、愛情をかけていると感じるだけに、処分というかたちで終わっていく命にたいして、育ててきた方々のやり場のない複雑な思いを感じる。言いあらわせないほどの大きな痛手であることは私の思いなど到底及ばないが、早く立ち直って欲しいと願うことです。

「また牛を飼いたい」という、3代続く宮崎県西都市の和牛農家に都会から嫁いだ女性のことを取り上げた新聞記事(新潟日報 7/20)に、かえってこちらが励まされるような思いがする。

所員のささやき ~源の篇~

「終わらない宿題」

今年も熱っつい。どうやら夏を迎える事が出来そうな感じだ。ていうか、これまで何回ささやいたか…。まあ、おぼえていないが、毎回毎回まとまらない事をささやいてきた事だけをおぼえている。駐在のつぶやきをチラ見したら、森駐在は思い出話を紹介されているようなので、今回は思い出話と今の話を織り交ぜながら、ささやかせていただこうかと思ひます。



まだ小学生の頃、家が何かとバタバタして人が居ない様な状態になっていた事があった。誰かが入院していたとかそんな状態だったのだと思う。

その間数ヶ月、もともと自坊のある村で生まれ育って、当時は金沢に住んでおられた御門徒のおばあちゃんが来てくれて、ずっと泊まりこみで面倒を見てくれた。ご飯を作ってもらって学校に行って「宿題せんと遊びに行くな」と怒られたりしながら生活していた。その後、大きくなってからも、いつも気にかけてくれて、自分にとっては血のつながりは無くても、もう一人のばあちゃんだった。

最後に会って話をしたのは、5年ほど前の報恩講で、その後、体が弱くなって施設に入られたことを聞いていたが、7月16日。亡くなられたとの連絡を受けた。大概、長生きされると大往生やとか何とか言われるが、そんな事自分にとっては全く関係なく辛くて悲しい別れだった。葬儀に出るため高速を走りながら涙が止まらず、涙が流れたまま走った。

先月の22日、23日と報恩講で自坊へ帰った時、毎年金沢から仕事を休んでお手伝いに来てくれる、ばあちゃんの息子さん(おっさんと呼んでいるので、以下おっさんと書きます)から「わしは色んなところで仏法の話の聞きかしてもろとるが、近くにおる自分の子供らに上手いこと伝えられんでおる。ばあちゃんの葬

式は、ばあちゃんを金沢の病院から連れてきて、ここ(能登の自坊)でさせてもらおうと思とるから、その時に子供らや若いもんにはばあちゃんの聞いてきた浄土真宗の話の分かるように聞かしてくれ」と言われていたので、ばあちゃんにお育てをいただいた事と併せてお通夜で話しをさせてもらうご縁をいただいた。

このばあちゃんには何度も怒られたが、小さい自分に対してされた仏法の話ばかりが記憶に残っている。いつも笑って手を合わされていた。「阿弥陀さんに手え合わせ。」「いつもお参りせないけん。」「ちゃんと仏法を聞いて大きくなったら、ばあちゃんに仏法の話の聞かしてくれ。」と言いながら育ててくれた。

自分は、そのばあちゃんのお通夜で話しをしてくれと言ってもらったことを、教えてもらうばかりで「ばあちゃんに仏法の話の聞いてもらう」という約束を守れなかった自分に、ばあちゃんがおっさんを通じて出した、終わりの無い宿題だったと思っている。おっさんが、親父(住職)でなく、あえて自分に喋れと言ってくれた事の中には、ばあちゃんが亡くなられた事を文字どおり仏縁として、孫さんや子どもさんたちが仏法に出遇って欲しいという願いがあって、その願いは、ばあちゃんが小さい自分に「阿弥陀さんに手え合わせ」、「仏法を聞かせてもらえ」と言うてくださった、その願いと全く同じものだと思う。

本来、自分みたいな者(人間)は、仏法と言われものも耳に入らなければ、手をあわせるはずもない、念仏が口から出ることもない者なのだそう。その私(人間)を本当に尊い事に向かわせるはたらきそのものを仏と言うのだと聞いている。悲しい事、うれしい事をご縁に両手が合わさる時。ナンマンダブツと口からお念仏が出る時。この時自分は、そういう姿を見せてくれた人たちと同じ世界にいるのだと感じる。俱会一処の世界だ。

数年前、仏青の研修会で「仏法は仏法を生きた人からしか伝わらない。」ということ聞かせていただいた。今、本当にその通りやなと思う。このばあちゃんも、自分にとっては、まさにそういう姿を見せてくださった人で、仏法を聞きながら自分を導き、前を歩いてくださった人だ。

自分は、色々なご縁を頂いて、仏法を少しずつ聞かせていただくと思わせてもらえるようになった。この先も、このばあちゃんのことを胸にしまいながら、浄土真宗という仏法を聞き続けていく。

歳修まで残す時間も僅かとなった御遠忌は、仏事。仏様のお仕事だ。この仏事を勝縁として多くの方々と共に、親鸞聖人が顕かにされた仏法に出遇うのだ。自分は今、色々な方々の御恩を忘れたまま、宗祖の御遠忌を迎えようとしている。ばあちゃんは、そんな自分に「いつも御恩の中におる事を忘れんと歩め。」と最後に教えていってくれた。 ☆☆☆☆☆